

株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
証券コード	7298
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	0120-782-031 ご利用時間9:00～17:00（銀行休業日を除く）
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各支店

お知らせ

住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

ウェブサイトのご案内

八千代工業 検索



CSRへの取り組み

当社の環境への取り組みを環境報告書として掲載しています。



<http://www.yachiyo-ind.co.jp/csr/>

IR・決算資料はこちら <http://www.yachiyo-ind.co.jp/ir/>

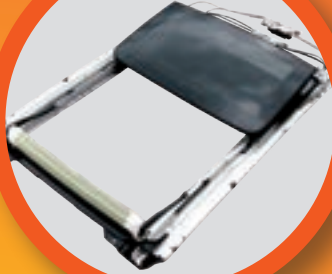
八千代工業株式会社

埼玉県狭山市柏原393番地
電話04 - 2955 - 1211（代表）
<http://www.yachiyo-ind.co.jp/>



第63期(2015年度)
上半期 事業ご報告

【2015年4月1日～2015年9月30日】



Index

社長インタビュー	1
地域別セグメントの業績（上半期）	5
連結財務諸表	7
FOCUS—15	9
トピックス	11
当社グループの主な製品	13
会社概要／株式の状況	14
株式のご案内／ウェブサイトのご案内	裏表紙





代表取締役社長 笹本 裕詞

ご挨拶

株主の皆様には、日頃より当社グループ事業へのご理解とともにご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。第12次中期『育成の期』も1年半が経過し、2020年Vision達成に向け施策を着々と推進しております。株主通信発行にあたり、当上半期の業績についてご報告申し上げます。

なお、当社は、グローバルに事業を展開しており、当社グループ内の会計基準統一による経営効率の向上、および財務情報の国際的な比較可能性・利便性の向上を目的にIFRS（国際会計基準）を任意適用いたしました。

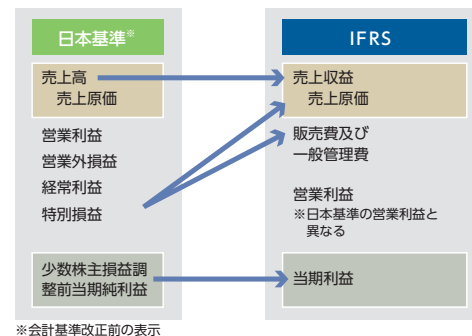
株主の皆様におかれましては、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2015年11月

会計基準変更による業績への主な影響

利益の変化点

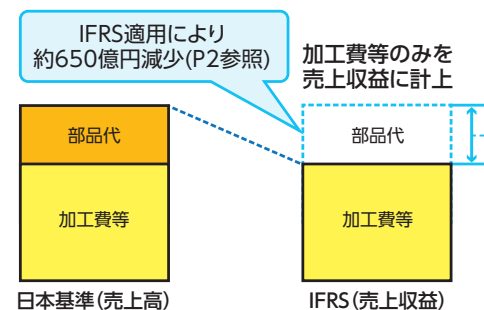
IFRSでは、経常利益の概念が無くなり、日本基準で特別損益に計上していたものを売上原価、販売費及び一般管理費に科目が組み替わります。これによる表示上の影響や、退職給付制度の変更における基準差などにより、日本基準に比べ増益となっております。



売上の変化点

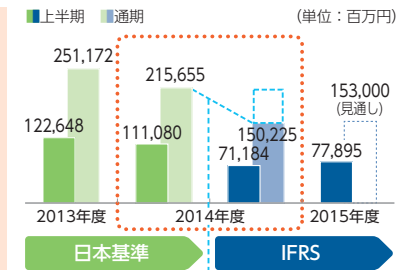
IFRS適用により購入部品代と同額が減少

日本基準では受注先から購入した部品の代金に加工費等を上乗せして売上高に計上しておりましたが、IFRSでは加工費等のみを売上収益に計上しております。

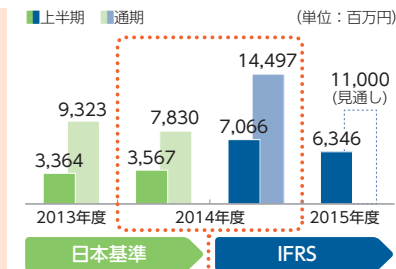


連結業績ハイライト

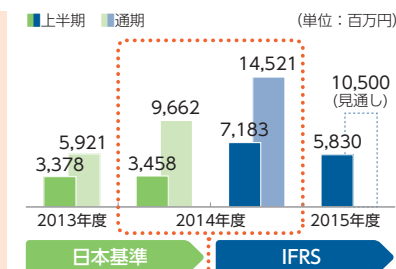
売上収益
77,895
百万円
(前年同期比9.4%増)



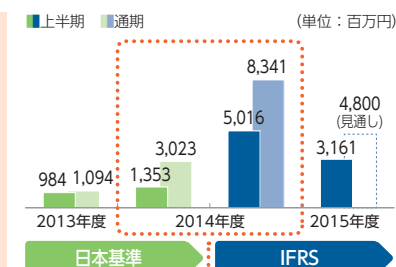
営業利益
6,346
百万円
(前年同期比10.2%減)



税引前利益
5,830
百万円
(前年同期比18.8%減)



親会社の
所有者に帰属する
当期利益
3,161
百万円
(前年同期比37.0%減)



Q 当上半期の業績の概要からお聞かせください。

A 当上半期の連結業績では、売上収益は自動車部品における受注の減少などはありませんでしたが、為替換算上の影響により前年同期比で増収でした。利益については、前期に退職給付制度の変更による影響があったことなどにより減益となりましたが、当社で手掛けているHondaの軽オープンスポーツS660が大変好評をいただいています。また、主力の樹脂製燃料タンク、サンルーフの原価改善によって、世界各地の生産拠点で利益面の改善が進んでいます。

中国をはじめ新興国において経済の減速が見受けられ、高級車への影響は顕著なようです。中国における当社の主要顧客はHondaと吉利汽車ですが、販売実績は前年を上回る勢いでいまのところ影響は少ないと言えます。

新興国経済はいまが底の状況と見ています。原価改善を強力に進めてきたこともあり、利益を出せる体質になってきたので、経済が上向けばさらに黒字幅は増えるものと期待しています。

先頃、大筋合意に至ったTPPでは、自動車部品関税が段階的に撤廃されます。わが国の自動車メーカーの多くはすでに海外での現地生産にシフトしており、国内回帰も一部見られます。当社は地産地消を進めているため影響は少ないと見ています。

なお現在、排ガスデータの不正によりドイツの一部メーカーの信頼低下が懸念されています。YGGで欧州メーカーからの受注を目指しているモデルがありますが、新規受注となるためマイナス影響はありません。引き続き、営業活動を継続することで、欧州におけるヤチヨの認知度をさらに高めていきます。

Q 2020年Visionの達成に向けた第12次中期「育成の期」の取り組み状況はいかがですか。

A 2020年Visionでは、「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」としています。それは「卓越した技術と特長ある製品で、多くのお客様から当社の製品を求められ、世界に通用する企業になる」ということです。これを達成するため、第12次中期(2014年度～2016年度)を「育成の期」と位置付け、「グローバルでトップクラスの技術・製品の競争力を獲得する」ことを目標に施策を推進しています。

“選択と集中”はその一つです。経営資源を集中することで、主要事業でトップクラスの競争力を身につけつつあり、2020年Visionの達成に向けてヤチヨは着実に前進しています。

Q “選択と集中”は、どのような展開を描いていますか。

A “選択と集中”は勝ち残りを賭けた決断です。強みを発揮できる樹脂製燃料タンクやサンルーフに経営資源を集中することで、世界をリードできる技術と製品の競争力を獲得し、新たな販路拡大に向けて“攻め続ける”のです。

現在、自動車メーカーの主力機種はすべてグローバル機種（世界中で販売される車種、例：Honda フィット等）です。世界同時立ち上げであっても同じ品質でなければなりません。自動車メーカーは世界各地で部品を供給できるサプライヤーを求める傾向にあり、当社はこれまで自動車の骨格となる板金事業を日本と北米で行ってきましたが、品質と開発スピードに対する

要求が高まる中、全世界で板金事業を継続するには大量の経営資源を継続的に投入する必要があります。

このような状況の下、板金事業の譲渡を決断しました。北米の板金事業の譲渡に続き、国内についても事業譲渡を進めるなど、大胆な事業構造の変革に着手しています。(10月15日発表)

このような中、樹脂製燃料タンクでは北米で機能部品内蔵技術(第62期上半期事業ご報告FOCUS-14参照)を使った新機種の量産準備を進めていますし、タンク本体だけでなく給油口やチューブ類などの周辺部品を含めたモジュール化についても、フィラーパイプの樹脂化などの手の内化が進んでいます。サンルーフにおいては、パノラマサンルーフに対する問い合わせが世界中の自動車メーカーから寄せられています。主要顧客Hondaの全量受注も目指しながら、昨年12月に設立したドイツの営業開発拠点YGGを足掛かりとするなど、Honda以外への販売比率も引き続き拡大していく方針です。このように、主要事業が着実に育っていることを実感しています。

Q 完成車事業の“少量特殊生産”が目指す姿を教えてください。

A 流れ作業による大量生産方式は、1900年代初めにT型フォードで確立されました。現在との違いは、作業をしていた人間がロボットに代わった程度です。大量生産は大量に売れることが前提でしたが、最近では他とは違うもの、誰もが持てないものに新たな価値を見出す傾向が強まっています。

昨年度から生産を始めたS660、アクティ特装車や

福祉車両などは、お客様は限られますが、世の中には必要とされるものです。また、東京モーターショーに出展したCFRP(炭素繊維強化樹脂)製エンジンフードなど、部品事業で培ってきた技術力を活かし既存のクルマにさらに付加価値を与え、『オンリーワン』を追求するためのカスタマイズ部品の開発も始めています。

普通の大量生産ラインでは流せない『少量でも必要とするお客様がいるクルマ』の生産、すなわち“少量特殊生産”の実現を進めており、大量生産とは一味も二味も違う付加価値を付けていき、より利益を出せる事業構造の確立を目指していきます。



少量特殊生産を象徴する
軽救急車「こまわり救急」
(東京モーターショー出展)

Q 自動車産業の一員として、ヤチヨがどのように社会的責任を果たしていくかをお聞かせください。

A 自動車業界の社会的責任の一つとして、環境負荷の低減(CO₂排出抑制など)が求められており、その対応は大きく分けて2つあります。

1つは自動車の軽量化による燃費改善です。部品メーカーである当社は、部品1点で何g軽くするかに注力してきましたが、金属から軽量のCFRPへ素材を替えることで、強度と軽さの両立を進める動きがあります。当社もCFRP製車いすレーサーの開発を通して技術構築を進めています。

もう1つは動力源の革新、つまりエンジン改良やハイブリッド化などであり、燃料自体を替える選択肢も具体的になってきました。次世代の燃料として注目されている水素エネルギーの普及に備え、NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)と水素ステーション用蓄圧器の研究開発を進めており、燃料電池車の水素タンクの先行開発も始めています。今後予想されるさまざまなエネルギー源の貯蔵システムを製造する「エネルギーストレージメーカー」に向けた歩みを確かなものにしていきます。

Q 「One Team with One Goal」というスローガンを掲げていますが、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A よりよい部品、クルマをつくることを1つのゴールと考え、開発から製造までが1つのチームという意識を持たなければ達成できないということから生まれたのが、このスローガンです。一人ひとりがいかに考えてチームとして行動するか、これこそがヤチヨの成長に結びつくのです。このスローガンのもとにチームとして1つとなり企業価値の向上を目指していきます。

株主の皆様におかれましては変わらぬご支援を心よりお願い申し上げます。

地域別セグメントの業績（上半期）

TOPICS
1

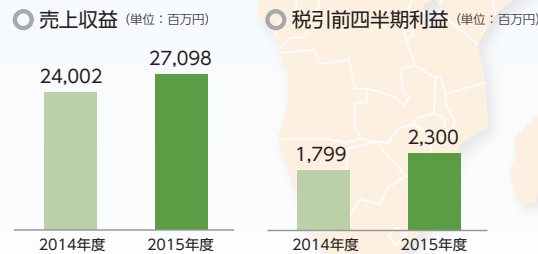
YGG サンルーフの新規受注に向け加速

YGGは、昨年12月の設立以降、駐在員を配置し運用を開始しています。新たな取引先からの受注に向け特定の欧州自動車メーカーの機種に対し、開発サンルーフの選定、および性能要件を満たす試験方法などの技術提案を、日本の開発部門と連携して進めています。



(サンルーフイメージ)

アジア



連結子会社であるGIA【インド】及びSGM【タイ】における受注の減少などはあったものの、GTA【ベトナム】における受注の増加や為替換算上の影響などにより、売上収益は、前年同期に比べ30億9千6百万円、12.9%の増収となりました。税引前四半期利益は、受注の増加や為替換算上の影響などにより、前年同期に比べ5億1百万円、27.9%の増益となりました。

拠点

インド

- YIM【ヤチヨ インディア マニファクチュアリング】
- GIA【ゴウシ インディア オートパーツ】

タイ

- SYC【サイアム ヤチヨ】
- SGM【サイアム ゴウシ マニファクチュアリング】

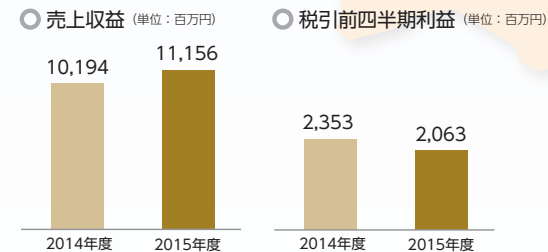
インドネシア

- YTI【ヤチヨ トリミトラ インドネシア】

ベトナム

- GTA【ゴウシ タンロン オートパーツ】

中国



連結子会社であるYZM及びYWMにおける受注の減少などはあったものの、為替換算上の影響などにより、売上収益は、前年同期に比べ9億6千2百万円、9.4%の増収となり、税引前四半期利益は、受注の減少などにより、前年同期に比べ2億8千9百万円、12.3%の減益となりました。

拠点

- YZM【ハ千代工業 (中山)】
- YWM【ハ千代工業 (武漢)】

TOPICS
2

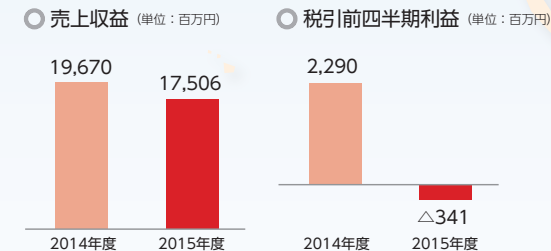
四日市製作所 自動車受託生産30周年

1983年の工場設立後、85年にHonda アクティ・シリーズから始まった受託生産は30周年を迎えました。少量生産の軽スポーツS660では、お待ちいただく多くのお客様に1日でも早くお届けできるように、稼働率を上げつつ熟練作業員によって高品質な製品を生産しています。



記念植樹で祝う

日本



自動車部品における受注の減少などにより、売上収益は、前年同期に比べ21億6千4百万円、11.0%の減収となりました。税引前四半期損失は、前期に退職給付制度の変更による影響があったことなどにより、前年同期に比べ26億3千1百万円の減益となりました。

拠点

【埼玉】

- 本社
- 埼玉研究所
- 柏原工場

【栃木】

- 栃木研究所

【三重】

- 鈴鹿工場
- 亀山事業所
- 四日市製作所
- ワイジータック

【熊本】

- 合志技研工業
- ウエムラテック

拠点

米国

- YOA【ヤチヨ オブ アメリカ】
- USY【ユー エス ヤチヨ】
- AYM【エー ワイ マニファクチュアリング】
- YMA【ヤチヨ マニファクチュアリング オブ アメリカ】

ブラジル

- YBI【ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス】

メキシコ

- YMM【ヤチヨ メキシコ マニファクチュアリング】

TOPICS
3

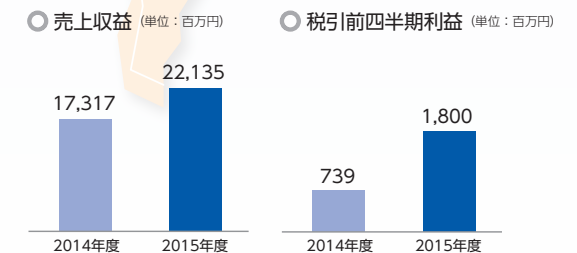
YMA バーチャル設計による 革新的生産ラインが実現

サンルーフでは開放感の向上や軽量化など製品の進化とともに、生産ラインも進化しています。要員配置や設備稼働など、バーチャル設計に基づく高効率な生産ラインが、2015年度中に実現する予定です。



バーチャル設計に基づくシミュレーション

米州



連結子会社であるAYM【米国】における受注の増加や為替換算上の影響などにより、売上収益は、前年同期に比べ48億1千7百万円、27.8%の増収となりました。税引前四半期利益は、受注の増加や前期におけるYMA【米国】の操業準備費用の減少、為替換算上の影響などにより、前年同期に比べ10億6千1百万円、143.7%の増益となりました。

連結財務諸表

四半期連結財政状態計算書（要旨）

	前年度末 2015年3月31日	当上半期末 2015年9月30日
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	18,530	17,945
営業債権及びその他の債権	30,887	30,797
棚卸資産	9,722	10,460
その他	3,176	3,536
流動資産合計	62,315	62,738
非流動資産		
有形固定資産	58,719	55,451
無形資産及びのれん	4,523	4,747
退職給付に係る資産	2,850	2,848
その他	5,143	3,259
非流動資産合計	71,235	66,305
資産合計	133,550	129,043

財政状態の説明

●資産合計

前年度に比べ45億8百万円の減少となりました。減少した要因は、棚卸資産の増加はあったものの、有形固定資産や持分法で会計処理される投資が減少したこと、また、為替換算上の影響などによるものです。

●負債合計

前年度に比べ47億6千5百万円の減少となりました。減少した要因は、その他の流動負債の増加はあ

（単位：百万円）
（単位未満四捨五入）

	前年度末 2015年3月31日	当上半期末 2015年9月30日
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	26,976	26,130
借入金	13,821	12,702
その他	5,837	6,460
流動負債合計	46,634	45,293
非流動負債		
借入金	11,902	8,953
退職給付に係る負債	5,107	5,128
その他	6,133	5,638
非流動負債合計	23,143	19,719
負債合計	69,776	65,012
資本		
資本金	3,686	3,686
資本剰余金	3,473	3,473
利益剰余金	38,739	41,660
自己株式	△ 25	△ 25
その他の資本の構成要素	7,929	5,776
親会社の所有者に帰属する持分合計	53,801	54,568
非支配持分	9,973	9,463
資本合計	63,774	64,031
負債及び資本合計	133,550	129,043

ったものの、借入金が減少したこと、また、為替換算上の影響などによるものです。

●資本合計

前年度に比べ2億5千7百万円の増加となりました。増加した要因は、その他の資本の構成要素が減少したものの、利益剰余金が増加したことなどによるものです。

四半期連結損益計算書（要旨）

	前上半期末 自2014年4月 1 日 至2014年9月30日	当上半期末 自2015年4月 1 日 至2015年9月30日
売上収益	71,184	77,895
売上原価	△ 58,227	△ 64,530
売上総利益	12,957	13,365
販売費及び一般管理費	△ 4,330	△ 5,260
研究開発費	△ 1,476	△ 1,663
その他の損益	△ 84	△ 96
営業利益	7,066	6,346
金融損益	105	△ 517
持分法による損益	12	2
税引前四半期利益	7,183	5,830
法人所得税費用	△ 1,723	△ 1,729
非継続事業からの四半期利益	253	－
四半期利益	5,713	4,102
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	5,016	3,161
非支配持分	697	941

四半期連結包括利益計算書（要旨）

	前上半期末 自2014年4月 1 日 至2014年9月30日	当上半期末 自2015年4月 1 日 至2015年9月30日
四半期利益	5,713	4,102
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目	111	△ 438
純損益に振り替えられる可能性のある項目	2,740	△ 2,496
その他の包括利益合計	2,852	△ 2,934
四半期包括利益	8,565	1,167
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	7,430	1,008
非支配持分	1,135	159

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

	前上半期末 自2014年4月 1 日 至2014年9月30日	当上半期末 自2015年4月 1 日 至2015年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	3,274	7,668
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 2,047	△ 2,164
財務活動による キャッシュ・フロー	103	△ 4,983
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	1,329	521
現金及び現金同等物に 係る換算差額	844	△ 1,106
現金及び現金同等物の 期首残高	15,586	18,530
現金及び現金同等物の 四半期末残高	17,760	17,945

キャッシュ・フローの説明

●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、棚卸資産の増加額9億9千5百万円及び法人所得税の支払額17億1千6百万円などがあったものの、税引前四半期利益58億3千万円、減価償却費及び償却費42億9千3百万円などにより、前年同期に比べ43億9千4百万円増加しました。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果支出した資金は、関連会社株式の売却による収入9億2千6百万円などがあったものの、有形固定資産の取得による支出額24億6千7百万円などにより、前年同期に比べ1億1千7百万円増加しました。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果支出した資金は、短期借入金の純減額7億3千万円、長期借入金の返済による支出額32億8千1百万円及び配当金の支払額9億1千万円などにより、前年同期に比べ50億8千5百万円増加しました。

エネルギーストレージ 新領域へのチャレンジ

地球環境の保全に向け、世界各国でCO₂排出量削減への取り組みが進められるなか、日本ではこれらに加えて、エネルギーの安定供給と自給率向上の観点から水素社会の実現を目指しており、すでに水素ステーションが稼働し燃料電池車が走り始めています。

ヤチヨは、自動車用樹脂製燃料タンクで長年培ってきた技術を応用し、新たな技術の手の内化を進めながら、さまざまなエネルギー源を貯蔵する総合的な「エネルギーストレージ」メーカーへの発展を目指しています。

水素タンクの量産へと続くロードマップを着実に推進し、社会にその存在を認められ、期待される企業になるために、ヤチヨは進化し続けます。



高圧容器の新技术を開発

ヤチヨが手掛ける高圧容器は、樹脂製のタンク本体（樹脂ライナー）とFRP（繊維強化樹脂）からなるコンポジット容器とすることで、従来の金属製のものから軽量化できることが特長です。圧縮ガスを貯蔵するため、ガス低透過性と高圧耐久性が求められます。

その樹脂ライナーには、ヤチヨが樹脂製燃料タンクで長年培ってきた、多層構造やかん合部のシーリング技術が活かされており、これによってガスの透過を抑制しています。

また樹脂材のみでは難しい耐圧性をガラス繊維や炭素繊維などのFRPを巻きつける(FW) ことで実現、今まで経験のなかった新しい領域の技術を手の内に入れました。

FW技術の進化

LPGコンポジット容器、天然ガス車用タンク、水素タンクと製品が進化するにつれて、求められる耐圧性は高度化していきます。

また、巻きつけるFRPにカーボン (CFRP) を使用すると非常に高価なため、いかに少ない量で耐圧性を担保するか、その巻き方が非常に重要になってきます。

繊維の巻きつける角度、巻き始めの端末位置、巻きの層数、張力などの条件について、CAE*を活用した設計を行っており、現在、より効率的なFW技術の開発を進めています。

今後の事業展開

LPGコンポジット容器は今年度中に販売を見込んでおり、高圧容器の製品第1弾となる予定です。

天然ガス車用タンクは、今年度中に容器検査の受審開始を目標としており、先の東京モーターショー2015でその試作品を展示しました。

さらに技術進化させた燃料電池車用水素タンク

は、先行開発を開始しており、2020年以降にクルマの普及期に合わせた事業化を目指しています。

水素ステーション用蓄圧器は、国策による100基のステーション整備に向けて、NEDOとの共同開発に基づいて軽量化と廉価化を追求していきます。

このように、エネルギーストレージを手掛けることで、ヤチヨは水素社会の実現に寄与していきます。

高圧容器を構成する技術



※Computer Aided Engineering…コンピューターによる設計支援

東京モーターショー2015へ出展

当社は、第44回東京モーターショー2015（10/30～11/8、東京ビッグサイト）に出展しました。「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指し、当社技術を見て、感じて、心を昂らせていただける展示としました。

従来モデルの約2.8倍のグラスエリアで圧倒的な開放感を実現したパノラマサンルーフや、炭化水素の透過規制を機能部品内蔵技術によって高水準でクリアする燃料タンクシステム、そのガス透過抑制技術を応用した天然ガス車用タンク（試作品）を展示。Honda S660をフィルムラッピングや高質感塗装の樹脂パーツで個性的に加飾し、自社開発したCFRP製エンジンフード（鉄製比で約42%の軽量化）を搭載したモデルを展示しました。また、長年にわたる自動車組立と架装の技術を活かした軽救急車も展示し、多くのお客様にご覧いただきました。



連日多くのお客様が来場したヤチヨブース



注目度の高かったS660カスタマイズ

2回目となる当出展でも多くの来場者から関心を寄せていただき、海外自動車メーカーとのコミュニケーションも深めることができました。当社は引き続き、お客様の満足を創造する魅力ある製品を生み出していきます。

出展の詳細は、当社企業サイト「Pick Up イベント情報」でご覧いただけます。
URL : <http://www.yachiyo-ind.co.jp/pickup/>

極<KIWAMI>と土田選手、リオパラへ向けて

当社製陸上競技用車いす「極<KIWAMI>」を駆る土田選手（当社所属）は、5月、6月とトラック種目で連戦し、400m/800m/1500m/5000m各種目で日本記録を更新しました。また、7月～9月にかけては、日本パラ陸上競技選手権大会、はまなす車いすマラソン、全国車いすマラソン大会の3レースで連続して優勝を果たしました。

その後、リオデジャネイロパラリンピックの車いすマラソン出場に向けた選考レースである大分国際車いすマラソン大会（11月）に臨みましたが、残念ながら季節外れの高温によって体調不良をきたし、途中棄権となりました。

次の選考レースは、2016年2月28日（日）開催の東京マラソン2016です。引き続き「極<KIWAMI>」と土田選手のタッグで、2016年9月開催のリオパラ出場、金メダル獲得を目指していきますので、ご声援をよろしくお願いいたします。



スタートは好調だった71番土田選手

社外取締役のご紹介

当社は2020年Visionの達成に向けて、主要事業に経営資源を集中することで営業力や研究開発力を強化し、販路の拡大や、エネルギーストレージ、CFRPなどの新事業を進めています。

そのような中、ワールドワイドプレイヤーとしてさらに成長を加速させるためには、従来のものの見方とは違った視点も必要であると判断し、多角的なビジネス視点を持つ 横瀬 勉 氏を迎え入れました。

同氏はこれまで、鉄道会社では鉄道・地域開発・海外事業などの現場で実務を経験し、外資系企業では事業運営を行うことでグローバルな視点を深め、経営者としての経験も積んできました。現在ではそれらの経験を活かし、複数の大学の、グローバルな課題の実践的解決について研究する学部で、学識だけでなくよりビジネスに即した内容を専門に、講義や研究を行っています。

同氏には、当社経営の監視監督に加えて、実務経験と豊富な知識の両側面からみた、これまでの考え方にとらわれない新たな視点をもって取締役の職務に就いていただいています。

社外取締役の役割を実行し、株主様の利益につなげる

社外取締役の役割は、中長期的な視点で、経営の監視監督を行い、経営の透明性を高めることで企業価値を向上させ、株主様の利益につなげることでありと捉えています。私の今までの経験から得た視点を活かし、これらの役割を実行していきたいと考えています。



これに加え、単に理想や考え方だけを示すのではなく、経営とコミュニケーションを取り、ヤチヨの事業環境や強みを把握した上で、外部の視点に立ち、経営に参加し意見を述べ議論を深め判断していきます。

引き続き、ヤチヨが持続的に成長・発展することで、株主様の利益につながるよう努めていきます。

茨城県常総市への災害支援活動

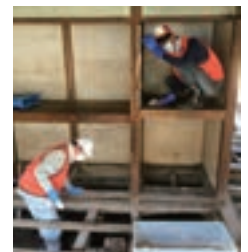
「平成27年9月関東・東北豪雨」への災害支援に当社の従業員が参加しました。当社では、従業員が個人として持つ社会貢献への思いを最大限尊重し、その思いに応えられるようバックアップするYVAP（Yachiyo Volunteer Assist Program）という制度を整えており、日頃は福祉施設での支援活動や環境活動を各事業所で行っています。大規模災害という緊急時においては、被災地で復旧の支援を行っています。4回の活動で22人が、被災された方たちの力になりたいと、自らの意思で茨城県常総市へ赴きました。

堤防決壊によって被災した家屋の土砂掻き出し、清掃、消毒などの作業を行い、特に作業が大きい負担となる高齢の方からは、「思い出の詰まった我が家を助けてもらった」と感謝の言葉を寄せてくださいました。

こういった企業風土や従業員がヤチヨを支えており、これからも世の中の役に立つ、存在を期待される企業を目指していきます。



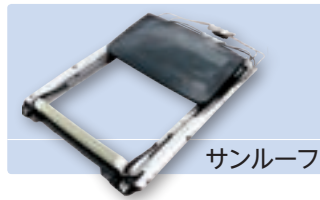
汚れた表土を除去



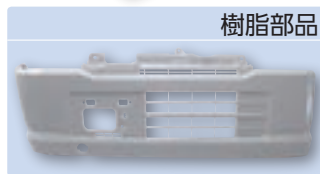
家屋内の床や壁を清掃、消毒

当社グループの主な製品

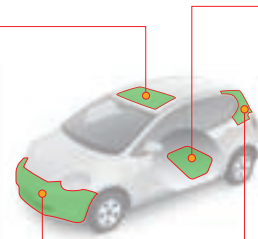
四輪部品



サンルーフ



樹脂部品



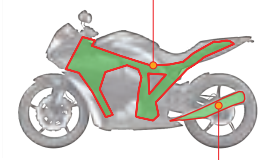
燃料タンク



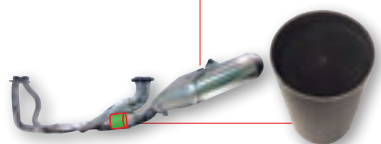
板金部品

二輪部品

フレーム



マフラー



メタルキャタライザー

完成車

S660



アクティ・トラック



バモス ホビオ



福祉・特装車

運転補助装置
Honda・テックマッチックシステム



法人特装車



アクティ特装車



会社概要／株式の状況 (2015年9月30日現在)

会社概要

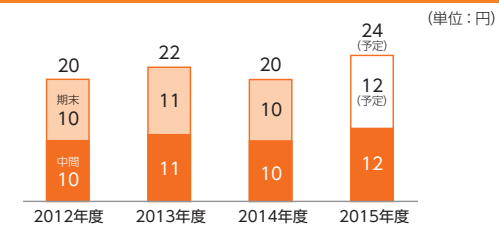
社名	八千代工業株式会社
英文社名	Yachiyo Industry Co.,Ltd.
設立	1953年8月27日
資本金	3,685,600,000円
従業員数	単独 1,468名 連結 6,381名
本社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地 04-2955-1211(代表)

役員

代表取締役社長	笹本 裕詞	常務執行役員	橋本 伸次
代表取締役副社長	板井 一良	執行役員	藤本 朋宏
代表取締役専務取締役	本告 次男	執行役員	伊東 良和
常務取締役	太田 康	執行役員	木原 浩之
常務取締役	北村 哲也	執行役員	栗原 貞幸
常務取締役	尾関 健一	執行役員	寺田 好伸
取締役	朝吹 和博	常勤監査役	坂田 英男
取締役	横瀬 勉	常勤監査役	松川 実
		監査役	山室 恵
		監査役	村松 昌信

(注) 横瀬勉氏は、社外取締役です。また、山室恵氏および村松昌信氏は、社外監査役です。

配当金の推移



当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置づけており、世界的視野に立って事業を展開し、企業価値の向上に努めております。

成果の配分にあたりましては、今後の資金需要などを総合的に考慮し、配当につきましては、長期的な視点に立ち連結業績を考慮しながら実施することを方針としております。

株式の状況

発行可能株式総数	70,000,000株
発行済株式の総数	24,042,700株
株主総数	2,864名

大株主の状況

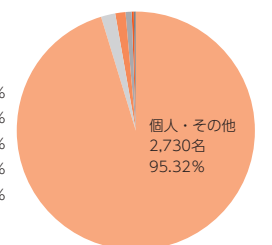
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
本田技研工業株式会社	12,103	50.34
大竹栄一	1,312	5.46
ビービーエイチ フォー フィデリティ ロー プライスド ストック ファンド(プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)(常任 代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	941	3.92
株式会社三井住友銀行	457	1.90
埼玉車体株式会社	438	1.82
八千代工業従業員持株会	421	1.75
株式会社三菱東京UFJ銀行	350	1.46
大竹好子	330	1.37
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	262	1.09
大竹譲司	232	0.96

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数は全て信託業務に係る株式です。

所有者別株式の分布状況

株主数および比率 (合計2,864名)

外国人	60名	2.10%
その他の国内法人	36名	1.26%
証券会社	27名	0.94%
金融機関	10名	0.35%
自己名義	1名	0.03%



株式数および比率 (合計24,042,700株)

個人・その他	7,350,872株	30.57%
外国人	1,851,900株	7.70%
金融機関	1,513,100株	6.29%
証券会社	165,885株	0.69%
自己名義	29,218株	0.12%

